

平成30年度 第5回北九州市指定管理者の評価に関する検討会議

日時：平成30年8月1日（水）

10:00～12:00

場所：本庁舎15階 15C会議室

1 開会

2 所管課に対するヒアリング(評価の検証)

(1) 戸畑市民会館・福祉会館

[市民文化スポーツ局文化企画課・保健福祉局地域福祉推進課]

ア 施設所管課から評価のポイントについて説明

イ 質疑応答

(構成員)

「1(1) 設置目的の達成」のところで、数や達成率を見ると目標どおり達成されているように見えるが、福祉会館は、いわゆる福祉の領域の目的で貸出しをされているのか。

(所管課)

貸出しは特に行政を中心にし、福祉目的以外でも行政が使う場合は産業経済的なもの等でも貸し出しているのが実情である。

(構成員)

設置目的を見ると、社会福祉活動を行う市民に対して研修の機会、あるいは市民の社会福祉活動の活性化に資するというのがあり、利用者はすごく増えているが、設置目的以外の利用者がすごく増えて稼働率が上がった場合、設置目的の達成はどこで判断するのか。

(所管課)

指標としてうまく取っていないところがあるが、行政が使うときには利用料を減免する。そうすると、「2(2) 収入の増加」の収入額は、基本的に設置目的に沿っていろいろな団体が利用しているところで、下がっている年もあるが概ね一定の水準を維持しているので、こういうところで判断できると考えている。

(構成員)

収入の予算は立てられているか。

(所管課)

当施設では、利用料金制を採用していないこともあり、予算は立てていない。いわゆる目標という形の管理はしていない。

(構成員)

そうすると、更新前の数字と比較して評価するということか。

(所管課)

その通りである。

(構成員)

収入の目標があったほうが、指定管理者がどれくらい頑張ったか、どれだけ目標を達成できたかというのが分かりやすいと思う。次回更新されるときは、目標を立てることも検討されたほうがいいのではないか。

(所管課)

貸館や貸部屋の稼働率という形で表れてくるが、実は稼働率は、どうしても行政で減免するものも含めてしまうので、収入というところだけで捉えると、少し考える必要はあると思う。ただ、どういう捉え方をするのが適正かは難しいため、そこは検討していきたい。

(構成員)

減免制度は、指定管理の努力ではないからか。

(所管課)

その通りである。

(構成員)

利用者満足度のところで、どちらもアンケートの無回答が結構多く、特に戸畑市民会館は1年ごとに、極端に無回答が増えている。無回答がこれだけあると、満足度を数値で評価するのが難しくなってくると思うが、アンケートの採り方の違いや無回答の理由など、何かあるか。

(所管課)

確認している限りでは、市民会館については、特段の理由を把握できていない。確かに、各年で波があるのは不思議だとは思っている。

(構成員)

平成28年度や26年度の数値が非常に高いので、このまま27年度、29年度もきちんとアンケートが採れていたら数字が高いのではないか。そうすると、利用者満足度の評価レベルが「4」ではなく「5」でもよかったのかもしれない。

(所管課)

ご指摘のとおり、「満足していない」または「全く満足していない」と回答した方はほぼいない。年にして1～2件という程度であり、この満足度の数値は、無回答の方の数字が大きく影響しているところである。指定管理者に、今後も努力を求めてまいりたい。

(構成員)

無回答が多いのは気にはなるが、一般的にアンケートの集計では無回答を外すと思うが、外すと当然高くなるので、そちらのほうが実態に即している。そうすると、結果により評価レベルが変わってくるかもしれない。ただし、そこは定量的な部分だけではなく、利用者満足につながるような努力など定性的なところも評価のポイントなので、担当課として

判断していただければと思う。

また、アンケートについて、評価シートに総合的な満足度の表が載っているが、総合的な満足度には、例えば建物がきれいだとか駅から近いなどというの也被まされてしまう。全部でなくていいが、例えば掃除が行き届いているか、職員の対応がどうかなど、指定管理者の努力にかかわる部分を少し入れていただきたい。

(構成員)

「1 (1) 施設の設置目的の達成」の評価ポイント「③ 複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか」について、4ページに記載された内容が、③の評価のポイントに対応していないように見受けられるので、ご説明いただきたい。これは、施設間の連携だと思うが。

(所管課)

もともと、戸畑市民会館と福社会館でそれぞれ設置目的が違う中で、スタッフは両方の運営をしている。また、特に市民会館関係は再委託という形で外部スタッフも入っており、情報の共有と意識の統一といったものが、当施設の運用において一番肝になるのではないかということで、こういった連絡調整会議などで情報共有して、問題点はフィードバックするという意味合いで、評価のポイント③に挙げたものである。

(構成員)

戸畑市民会館と福社会館は、施設としては一緒なのか。

(所管課)

建物としては一緒である。

例えば、市民会館のホールで講演や演奏会などを行う場合、その控室は市民会館内にあるけれども、高校生など団体が多い場合に、福社会館の会議室等を使うこともある。もちろん、日程調整の関係で全く取れない場合もあるが、そういった意味では市民会館側からすると、使わせていただいているというふうに考えている。

(構成員)

6ページと7ページで、戸畑市民会館の光熱費の決算の金額が事業費内訳と少し異なるのではないか。

(所管課)

確認させていただき、事務局経由でお答えしたい。

(構成員)

7ページの指定管理料の決算の金額は、どう算出されているのか。単純に6ページの決算額を両方足しても、この金額にならない。

(所管課)

基本的に福社会館と市民会館の決算額を足した数字を入れたという認識だった。数字が合わなければ、そこは誤植かもしれない。確認して事務局経由でお答えしたい。

(構成員)

8ページの戸畑市民会館の分析の最後の文章に、「減免額にも影響されて実収入額は選定前の数字をやや下回った」とあるが、合計額を見ても既に下回っているのに、減免額に影響されたわけではないのではないか。

(所管課)

ご指摘のとおり、合計額も下がっているのに、収入としては下がっている。ただ、市民会館の利用率は上がっていると認識しており、利用区分や利用時間の問題もあると考えている。表現としては、再検討する必要があるかもしれない。

(2) 門司市民会館・若松市民会館・八幡市民会館

[市民文化スポーツ局文化企画課]

ア 施設所管課から評価のポイントについて説明

イ 質疑応答

(構成員)

利用件数や稼働率は多くなってはいるが、収入が減っているのは、減免などによるものか。

(所管課)

考えられる要因のひとつに減免があるが、減免での増減は分析ができていない。他に考えられる要因として、市民会館等の使用料が、実際に利用する日の前年に入ってくるためである。利用者は、1年前からの申し込みの時点で入金するため、翌年度利用する方の入金が現年度に入ってくるという形になっており、1年ずれになっている可能性がある。そのため、平成29年度の利用が上がったから、同年の収入も上がるというふうには直結していない部分がある。それをきちんと年度を合わせて分析すると、収入としては現状維持、全体として50万、60万円の増くらいで維持されている。

ただし、減免を考慮すると、やはり前年度比100万円くらいの減となるので、減免の部分の上下というのは少しあると思っている。

(構成員)

収入の増加の評価レベル「2」の理由が、評価シートの内容を読むだけでは分からない。

(構成員)

その収入の上げ方が、つまり現金収入で上げているということか。現金収入でいいのか。通常の会計だと発生主義でやると思うが。

(所管課)

複式簿記とかの場合はそうである。ただし、この場合は、基本的にはその年度に入ってきた金額を上げる形になる。

(構成員)

他もそうなのか。

(事務局)

行政の会計上、そうなる。

(構成員)

減免も同様に、今の話は指定管理者が決めた話ではなく、行政が設定している話であれば、指定管理者の努力や取組みが足りないから下がっているのか、それとも制度的な話なのか、そうではなく外的な、例えば台風など天候によるものなのかがよく分からない。これは施設の評価でなく、指定管理の評価なので、収入に関して指定管理者がどういう努力をして、それが約束どおりできていれば評価レベル「3」であり、市の要求水準を上回っていれば「4」、目標どおりに達成できていなければ「2」である。「2」を付ける理由や根拠をもう少し詳細に書いていただいたほうがいいのではないかと。特に、利用者は増えていて、収入が減っているのは、どこまで指定管理者の責任なのか。

(所管課)

門司市民会館、若松市民会館については、他の劇場や戸畑市民会館と比べて、さほど利用率が高くない。戸畑の70%、劇場の70%というのは、所管課としては上限だと思っており、これ以上増やすのは困難なレベルだと考えている。それに対してまだ達していない状況の中で、減免が影響するということは、基本的に市の事業を入れてきているということになる。そういった意味で、努力の余地はまだ残されていると思っている。

(構成員)

立地条件や施設の老朽化などを含めても、努力の余地はあるということか。

(所管課)

その通りである。

(構成員)

それを評価の根拠として書くのは難しいと思うが、工夫していただき、もう少し具体的に書いていただいたほうが良いのではないかと。評価レベル「2」だと、やはり「何で」ということになるので。所管課の判断の状況はよく分かったので、可能であれば、記述内容を工夫していただければと思う。

(構成員)

予算は入れていただいているのか。

(所管課)

目標としての予算は、基本的には設定していない。様式の4-3で、行政的な予算としては、使用料収入の状況というところで、過去の推移から考えるなどして予算を立てているが、現状では、これは指定管理者に求めた予算というものではない。

(構成員)

それを指定管理者にそのまま求めるかどうかは別にして、指定管理者と協議しながら、行政としてはこういう予算を立てているというような話はされないのか。

(所管課)

現状は行っていない。

(構成員)

指定管理者制度は、行政が外注して、それをきちんとやっているかどうかをチェックするというだけではなく、民間事業者と行政が協働してより良い市民サービスをつくるというのがもともとの趣旨である。それを考えると、その辺を含めて知恵を出し合って、一緒により良くしていただくために、予算や目標の共有なども必要であると思う。

(所管課)

戸畑市民会館の話と重複するが、要は指定管理者の選定の際にそれを入れるべきかどうかというところの判断によると考えている。現状としては、市の減免という要素が非常に多く、例えば先ほどの福祉会館はかなり行政の利用がある。一方、市民会館は、行政利用だけで占有すると市民の利用ができなくなるということで、行政利用は一定の制限という運用でコントロールしているけれども、それでも影響が見えにくい、指定管理者に求めるのが難しい部分がどうしても入ると思う。

(構成員)

難しいのは分かるが、収入の目標がないのに指定管理にどこまで求めるのか、あるいは指定管理者がどこまで頑張るのかというのが分かりにくく、評価しにくい。

(構成員)

指定管理者と協議しなければ、この目標は何のために設定しているのか、意味をなしていないのではないか。

(所管課)

目標というより、市の収入をどれだけ確保できるかという見込みを立てている。

(構成員)

そこは理解できるが、行政と協議しながらではあるが、実際に集客するのは指定管理者である。そうすると、そこも共有すべきだと思う。現状でできていないことを指摘しているわけではなく、より良くしていただく必要があるので、ぜひご検討いただきたい。

(構成員)

アンケート結果は、先ほどと一緒に、無回答は含んでいない数字か。

(所管課)

含んでいない。

(所管課)

戸畑のほうは個別回答はあるが、総合回答がない部分があった。要は、アンケート1つの中での差があり、総合的に判断して戸畑のこのような表記をさせていただいた。

今後は、行政経営課と相談しながら、アンケートの回答方法について考えてまいりたい。

(構成員)

アンケートの満足度の数字を見ると非常に高く、数字だけ見ると評価レベル「5」でも妥当であると思うが、「5」までいかない理由は何かあるか。

(所管課)

足りていないという考えはなく、非常によくやっていただいた結果がだと思っている。

(構成員)

この数字は総合評価なので、指定管理の努力が直接反映されるような項目等がものすごく高ければ評価レベル「5」でもいいと思うし、定性的なところも評価のポイントとなるので、例えばアンケートで出てきた意見を反映させるような仕組みがあれば、評価に反映して良いのではないか。その辺を含めて総合的な判断で評価レベル「4」は当然あり得る。

(所管課)

利用者満足度について、評価レベルを再度考えさせていただきたい。

(3) 大手町練習場

[市民文化スポーツ局文化企画課]

ア 施設所管課から評価のポイントについて説明

イ 質疑応答

(構成員)

「(2) 利用者満足度」について、アンケートでの満足度は非常に高いので、評価レベル「4」でも妥当と思われるが、資料を見ていると、ネット予約をできるようにしてほしいという要望があった。このような意見は以前もあったと記憶しているが、これは指定管理の役割なのか。ネット予約はやはり難しいのか。

(所管課)

それは行政のほうで用意しているが、システム改修に費用がかかっている。費用対効果で、ネット予約のシステムを整備したところで、それに見合う収入があるかという考え方になると、現状でも非常に高い利用率を維持している中で、これ以上の収入は難しいと考えられる。そのような理由から、所管課として投資できていない、考えるに至っていないという現状である。

(構成員)

最近ではフリーのネット上の予約システムなどがあるので、そういったものを使うと、割と簡単に導入できるのではないか。ただし、行政サービスなのでセキュリティ上の問題があるのは重々承知しているが、同じ意見が毎回出ていると、市民としては、アンケートに書いても意味がないと思われるのではないか。

(所管課)

今は予算化できていないが、施設の予約システムは市全体で見直しを行っているところ

である。そこの利用について、今後検討させていただきたい。

(構成員)

2ページの原因分析の①に「利用率・稼働率ともに目標を達成することができなかった」とあるが、平成26年度は利用件数が発生していなかった。「利用率」となっているけれども、「利用件数」では。その後に前年度実績と比較するとあるが、これは平成25年度と比較しているのか、それともその年度ごとに、平成27年度だったら26年度、平成28年度だったら27年度というふうに比較しているのか。

(所管課)

各年度の前年度と比較している。更新前の平成25年度との比較というのもあるが、求めている水準が7,000件と、60%というのを公募の際の目標としていた。こちらに示しているのはそれに対する指定管理者の目標であり、市が求める水準を上回る目標を立てたがそれに及ばなかった、しかし、市が求める水準は達成しているという評価である。

(構成員)

要求水準が決められており、その水準をクリアしているということであれば、それを入れていただきたい。ただ、指定管理者が独自に立てた目標には至らなかったと。そのほうが「3」の理由が分かりやすい。

(構成員)

2(1)「経費の低減等」で、事業収支だけを見ると収支が一致していたが、本当に一致しているのか、それとも指定管理者が負担しているのか。

(所管課)

当施設は、若松市民会館、門司市民会館、戸畑市民会館のように光熱水費を指定管理料の中から支払っておらず、テナントとして入っているような状況である。その部分は市が負担しているため、収支差が出にくい施設だと考えている。基本的な人件費と、多少の維持管理費程度しかないと思う。

マイナスは出ないと思っているが、どこまで経費を削減して指定管理者が儲かっているのか、報告として求めておらず、分析には至っていない。

(4) 旧百三十銀行ギャラリー

[市民文化スポーツ局文化企画課]

ア 施設所管課から評価のポイントについて説明

イ 質疑応答

(構成員)

旧百三十銀行ギャラリーも、事業収支だけを見ると収支が一致しているが、こちら先ほどと同じ考え方か。

(所管課)

その通りである。

(構成員)

「1(1)施設の設置目的の達成」で、これも目標のほかにも要求水準があるのか。

(所管課)

要求水準は、150日と42%である。どちらにしても達成できていない状況である。

(構成員)

この数字を見ると、ほかの施設に比べてかなり達成率が低い。評価レベル「3」が妥当なのか。

(所管課)

今まで見ていただいた施設は市民会館であり、1つの大きい箱ということで、きちんとその目的で整備した施設である。しかし、旧百三十銀行ギャラリーは基本的には文化財を公開して、そこを活用していただくということで、当初は副次的な利用効果を期待していたものである。つまり、市民会館とは施設の特性が異なり、地域の方に開かれた、公演もできる施設として指定管理者制度を導入しており、規模的にも非常に小さい。利用者数非常に少ない、地域に根付いた施設である。そういった点を考慮すると、市全般から人が集まる施設かと言われると、なかなか難しいところがある。

(構成員)

状況は分かるが、要は行政が設定した要求水準があり、選定時に指定管理者が設定した目標がある。そうすると、もともとその目標や要求水準が高過ぎたという話は当然あると思うが、達成率がこれだけ低いのに評価レベル「3」とするのであれば、もう少し定性的な努力や、あるいは指定管理の努力が及ばない要因などを追記していただきたい。他の施設も横並びで同じ基準に基づいて評価するので、評価の妥当性を検証しにくい。

(所管課)

当施設は、利用者が盛大にコンサートを開くことで満足するというよりも、市が指定した文化財を市民に周知、利用していただき、地域で守っていただくという、定性的な要因が非常に大きい要因だと考えている。しかし、指定管理者の選定にあたっては、数値ではない定性的な効果で評価することが難しいため、要求水準を挙げさせていただいている。

もともとの要求水準がどうだったのかが現状課題となっており、今年度募集にあたって、再検討しなければならないと考えている。

(構成員)

更新前と比較すると増えているか。

(所管課)

更新前は、平成21年度に指定管理を募集したけれども費用面と要求面から応募がなかったという年があり、その年は運用委託を行った。

(構成員)

そのあとに指定管理を入れたのか。確か3年間やっているはずである。その期間は平成

21年と比べると、上がっていたはずである。

(所管課)

平成21年と比べると上がっている。今期も、平成21年と比べると上がっている。

(構成員)

そうすると、第1期の指定管理期間と比べて、これが増えているのか。ここは少し点数を含めて、あるいは記述をご検討いただければと思う。

(構成員)

しかし、指定管理者制度導入以前の実績と比較しても意味がないと思う。1期目であれば、指定管理前と比べると当然だが、今回は2期目なので、前年度との比較を文章に書いたら分かりやすいと思う。

(構成員)

「1(2)利用者満足度」で、アンケートの依頼文に誤りがあるのでご確認いただきたい。また、集計にも誤りがあり、質問票はきちんと選択肢が対称になっているが、おそらく集計は非対称になっており、数字がずれているので見直していただきたい。

また、アンケートのサンプル数がすごく少ない。イベントを主催した方にアンケートを採っているが、このくらいの規模であれば利用者に対するアンケートも可能だと思われる。施設そのものというより、例えば掃除などの指定管理者の役割の部分での満足度が測れないか。現在、サンプル数は20~30程度で、満足度100%はすごく高いけれども、100%はあまりあり得ないと思われるので、回答者が顔なじみなのではないかという点が気になった。

(所管課)

アンケートの採り方は、この施設では、利用者の位置付けは主催者であり、かつ入場者がいらっしゃる。入場者は、公演の内容によって満足や不満が出てくるため、その考え方については常に悩んでいる部分である。

一方、正直なご意見が出る可能性もあるので、採るべきものでもあると考えている。それを評価にどこまでどう反映するのか。恣意的なものが表れにくいようにしないといけないので、所管課としても悩んでいる部分である。

(構成員)

入場者と関係するが、5ページの収入のところも、単純に達成率で見るとすごく低いが、評価レベル「3」が妥当なのか。この施設も減免があるのかもしれないし、他の具体的な要因があるかもしれないので、評価の理由を再度ご検討いただきたい。

また、6ページの3番の①で「人件費の実績が計画を上回ることはなく」とあるが、この書き方では予算の話になってしまうので、限られた予算の中で、きちんと人数や人材が配置されているという書き方のほうが適切ではないか。

(5) 北九州芸術劇場・響ホール

[市民文化スポーツ局文化企画課]

ア 施設所管課から評価のポイントについて説明

イ 質疑応答

(構成員)

響ホールの平成29年度のアンケートの分で、「まったく満足していない」という人が回答してもらうところに、とてもいい意見が書かれていた。それだけ集計する項目を変えてあげたほうがいいのではないか。

(所管課)

指定管理者に確認したところ、恐らくこの方は満足に丸を付けたものと推測できるが、このように書いていたので、定性的に欠かざるを得なかったとのことだった。内容を見る限り、恐らく満足のほうだと思われる。

(6) 北九州国際展示場・北九州国際会議場

[産業経済局MICE推進課]

ア 施設所管課から評価のポイントについて説明

イ 質疑応答

(構成員)

利用者満足度で、北九州国際会議場のところに、ホール、会議室の利用料金、設備の利用料金とあるが、これは指定管理者が独自に定めており、指定管理者の取り組みの部分であるということか。

(所管課)

その通りである。手続き上、指定管理者の利用料金は、条例で定められた範囲内で指定管理者が決定し、それを市が告示して、改めて利用料金として設定している。そのため、条例で決まっているのはあくまで上限であり、どれくらいの料金を取るかは指定管理者が決めたものである。

(構成員)

「2(1)経費の低減等」の原因分析の「共通」の1、2行目に「2施設の管理運営については、平成26年度から29年度の間、いずれの年度も目標値を上回る削減ができています」とあるが、この表現では削減の目標値のようにみえる。今回の場合、実績が目標値を下回っており削減できているという表現が適正と思われるので、再考していただきたい。

(構成員)

北九州国際会議場の稼働率と利用件数の整合性について、なぜ、利用件数は目標値をだいぶ下回っているのに対し、稼働率は上回っているのか。目標値の設定の仕方の問題か。

(構成員)

1件当たりの時間が長いということか。

(所管課)

その通りである。件数は、1日で2つ使っても2件とカウントされるので、稼働率と全て比例するわけではないのが実情である。

(構成員)

ブロックごとではなく、稼働日で稼働率を計算するということが。

(所管課)

その通り、稼働日である。1部屋をお使いになってもそういう形になる。

(構成員)

アンケートで、アクセスが駅から分かりにくいという意見は前回も出ていた。構造上の問題であるため仕方がないと思うが、指定管理者としては工夫や改善をされているか。

(所管課)

場所の問題は難しい部分はある。会議場に行くルートは、外を回っていくのが正規のルートであるが、A I Mの中のカリヤという少し大きい通路を歩いてエスカレーターを降りるほうがより分かりやすいので、会議で来られた方は、なるべく開館時間に応じてそちらを利用してもらうようご案内している。そのほうが、カリヤを歩いてもらって、雨に濡れないとか、展示場やA I Mなど、いろいろと見ていただけるというのもあり、口頭ではあるが、皆さんにご案内はさせていただいている。

(構成員)

アンケートは、単に評価するためだけでなく、得られた意見をもとにどう改善していくかが一番大事なところである。努力してもできないことはあるが、アンケートの意見を酌み取り、個別に対応できる仕組みがあればすごくいいと思う。その辺も評価の対象になる。割と良くなっている気はするけれども、この意見はいつも書かれてしまうので。

(所管課)

例えば市民の声、利用者の声を活かすことができるように頑張りたい。

(構成員)

5ページの最後の2行で、保守契約の年間の点検回数を改めたとあるが、点検回数の要求水準はあるのか。他の所で要求水準を下回っていた事例があったが、この施設はきちんと満たしているのか。

(所管課)

メーカーが求めるものと、設備の経年の状態の問題がある。メーカーは、例えば「年間で2回でいい」とか「4回でいい」と言うけれども、設置してから20年、30年たっている施設なので、現状はやはりそれだけでは苦しいというところで、指定管理者が独自に少しメンテナンスすることによって、よりメーカーにかかる金額を少し低減できるというのものもあるようなのでこのような書き方にしている。

(構成員)

その回数に基準などは特にないか。

(所管課)

特には定めてない。

(7) 北九州市エコタウンセンター

[環境局環境産業推進課]

ア 施設所管課から評価のポイントについて説明

イ 質疑応答

(構成員)

アンケートについて、非常に評価が高いので評価レベル「5」は妥当であると思うが、回答の選択肢が非対称になっており、「大変満足」「満足」と「少し不満」「不満」で、不満の選択肢には「大変不満」がなく“少し”が付いている。アンケートは回答の選択肢を対称にしなければバイアスがかかってしまうので、対称になるように設計していただきたい。

(構成員)

3ページの環境修学旅行の受入れが減ってきているのは、エコタウンセンターや、指定管理の努力に影響される場所なのか。あるいは、そもそも環境の話ではないのか。

(所管課)

修学旅行は、産業経済局と連携してPR等をしている。ただし、関西以西が中心になるので、特に平成28年度以降に大きく落ち込んでいるのは、熊本地震などで九州に修学旅行に行くのを控える傾向があることなどが大きな影響の一因であると考えている。

(構成員)

事業費内訳で収支が一致しているが、本当に一致しているのか。それとも、指定管理者の負担分を書いていないのか。

(所管課)

人件費等において、指定管理者の響灘開発が一部、資金を出している現状はある。

(構成員)

それはどれくらい分かるか。

(所管課)

人件費だけではなく、管理費の部分を事業費に充てるなどしている。単純に人件費だけを充てているわけではないが、いずれにしても、自主財源を充てているので、市から払った分は、まるまる使い切っているということになる。

(構成員)

平成25年度もそうだが、人数の目標値は10万人くらいで推移している。指定管理者

はかなりいろいろなことをされているが、頑張ればこれ以上に入場者数が増える見込みはあるのか。

(所管課)

現状では目標値を10万人と定め、イベントなどをやって、それを死守するのに苦労している。近年は市外から来られる方が減っており、現在、市内の新しい人を掘り起こしてカバーしているが、市外からの人数等が回復しなければ厳しい状況である。

例えば、平成29年度でいうと、市内からが約52%、市外から約30%、海外からが約17%であり、海外からは大体安定している。構成比率では、2年前であれば市外からが約40%だったのが、今は約30%にまで減っている。その点は指定管理者ではどうしようもない部分もあるので、なかなか厳しい状況であると思っている。

(構成員)

環境産業といっても、リサイクルは、一時期のブームはもう終わっていて、トレンドが変わっている。次期指定管理者の選定に向けて、目標や要求水準をどう設定するかの見直しに入っているのか。

(所管課一同)

その通りである。

3 意見交換

(構成員)

旧百三銀行ギャラリーの「施設の設置目標の達成」と「収入の増加」項目の評価レベル「3」は妥当か。確かに、もともと文化財なので、他の施設とは異なるというのはよく分かるが、目標や要求水準を決めていて、指定管理者も選定時に提案して受けているので、評価レベル「3」とするには、達成率が低すぎるのではないか。

(構成員)

現在の評価レベルからすると、達成率は低いと思う。平成29年度は特に低い。前回の指定管理期間との比較も欲しいが、それでも低い。

(構成員)

適切な広報をしているのか、どの辺まで広報をして周知をしているのかがよく分からないが、その辺はまだ頑張れる余地があるのではないか。

(構成員)

文化財だからこそ、イベントの文化とか芸術に関するものを、もう少しできそうな気がする。駅から遠いなどの立地条件などマイナス要素はあるが、やはり単純に実績値が低い。

(構成員)

例えば、収入に関しては減免の影響があるのであれば、評価レベル「3」でも妥当かもしれない。入場者や利用件数と収入が、単に平行ではないかもしれない。

(事務局)

できれば選定前の実績や第1期の企画などを踏まえながら、定性的な評価を加えて再考していただければよいのではないかと。

(構成員)

第1期と比べると妥当なのか。その結果が悪ければ、評価を落とさざるを得ないのではないかと。

(構成員)

指定管理者制度を導入する前と第1期を比べると、利用者はすごく増えていた。

(構成員)

2期目以降に下がっていくというのは、傾向としてはあると思う。

(構成員)

そもそも北九州の人口が減少している中で、この施設の利用者だけが増えることはない。

(構成員)

やはり、少し目標が高すぎるのではないかと。

(構成員)

所管課が再考した結果を見て、また判断したい。

(構成員)

北九州芸術劇場・響ホールの「2(2)収入の増加」で、予算自体、平成28年度は高いと思うが、平成28年度は29年度に対して2分の1くらい減っている点が気になった。

(事務局)

恐らく、演劇の誘致なので、知名度や内容によって多少のブレはあるかもしれない。

(構成員)

新感線などが来るときは多いけれど、最近は大物が来ていないので、少し弱いのでは。

(構成員)

芸術系施設の評価は難しい。例えば、すごくマニアックで評価が高いものを誘致すると、知っている人からの評価は高いが、知らない人は知らないということになる。

(構成員)

最近の演目評価を見ていると、やはり大物というより地元密着のダンス公演が増えていたり、地元公演が増えていたりするため、それが影響していると思う。

(構成員)

施設の設置目的などとの兼ね合いで、どう評価するかは本当に難しい。

4 これまでの検討会議の意見を踏まえた所管局の対応について

(1)事務局より説明

(2)意見交換

ア 門司病院

(構成員)

3ページに⑤という項目が追記されていて、点数の根拠みたいなものがより詳細に書いてある。説明としてはわかりやすいが、他の評価シートにはこのような表記はないので、これは削っていただいたほうがいいのではないかと。

イ 北九州市小倉城・小倉城庭園・水環境館

(構成員)

小倉城の8ページで、①に対する文章が削除されている。前は、“利用者サービスの観点から適正な人員が配置されており、アンケート結果でも、例年80%近くが「大変良い」「良い」との好評価を得ている”という表現があった。が、人員配置が適正であると評価したことについて、何かしらコメントを入れたほうが良いと思う。

ウ 平尾台自然の郷

(構成員)

「収入の増加」の評価レベルを「2」から「3」に上げたのはなぜか。

(事務局)

自主事業において、差益の部分も考慮しても良いのではないかとこの意見があったので。

(構成員)

そうなのだが、経費の低減で高く評価する代わりに収入の増加を低くして、バランス良くすべきではないか。この評価では、やはり収入の増加の評価レベルは「2」が正しいのではないかと。指定管理者の努力は経費のほうで評価しているのだから。

(構成員)

レストランをセルフサービスにして単価を下げるというのは、戦略としては当然ありなので、それで収入下がっているから評価レベル「2」でいいのかという話だったと思う。結果的に人件費を削るという話につながっているから、前の「経費の低減」が評価レベル「4」になって、そこで相殺されているのではないかと。収支で考えたときに、収入も減ったが経費も減っていてトントンであると。そうすると、ここを評価レベル「3」に変えるのはおかしいのでは。

(構成員)

食事代だけでどれくらい違っているのか。この中の内訳の食事代が、いったいどれくらい下がって、一人当たりの単価がどのくらい減っているのか。

(構成員)

それは書いていないが、7ページは、収入の減少の主な要因は、「自主事業収入の飲食部門の収入減である」と書いてあるので、これを素直に読めば、飲食部門が減っているという話ではないか。一方、セルフサービスに変更すれば、人件費が減っているはずであり、経費のみに反映されているはずである。

(構成員)

戦略としては、リーズナブルな価格に変えたことによって、人を増やしてとなると、収入は変わらないはずである。そう考えると、目標に達していないのはおかしい。

(構成員)

ここは、いわゆる利益ではなくて、収入なので、単純に言えば、やはり減るのがいい、悪いというわけではないけれども、評価シートの性質上、分けて書かせるとなると、やはり評価レベル「2」ではないか。

(事務局)

一方、自主事業について、選定のときにそこまで評価しているかどうかというところもあると思われる。

(構成員)

選ぶときに、自主事業をこれだけやって、収入をこれだけ上げるという約束をしているかどうか。それがコンペに勝った理由として入っているかどうかということか。

(構成員)

利用料金収入も80%程度ではないか。先ほど、80%くらいで評価レベル「2」のところがあったのでは。

(構成員)

検討会の意見としては、セルフサービスにして収入が減っていること自体のよし悪しではないが、経費の削減と相殺されるはずなので、経費の削減が評価レベル「4」だと、やはり、ここは素直に数字を見て評価レベル「2」ではないかというところだろう。

(事務局)

文章で原課に、意見として伝えた内容としては、客観的に見て、今言ったような工夫により収入が減ったという部分だけを捕まえて、評価レベル「2」にするのは酷ではないかという表現で伝えている。ただ、ご指摘のとおり経費の低減の評価レベル「4」と相殺しているのであれば、この評価レベルでもいいと思うと。

総合的に検討してくれという意見に対してなので、相殺して何かプラスがあると判断しての評価かも知れないので、経費の低減を評価レベル「4」として相殺しているのであれば評価レベル「2」ではないか、もう一度投げかけをしたい。

5 事務局より今後の事務の進め方の確認

(事務局)

「検討会議における意見」については、これまでのヒアリングで出た意見を踏まえてとりまとめ、8月中旬頃までにご確認いただけるようにしたい。

また、本日までの検討会議の意見を踏まえた所管局の対応については、修正のあった評価シートを後日、郵送させていただくので、ご確認いただきたい。

(座長)

検討会議における意見および、本日までの検討会議の意見を踏まえた所管局の対応については、何か気付いたことがあれば、事務局にご連絡していただき、最終的には私と事務局で修正なり形を整えるので、一任していただくということによろしいか。

(一同「異議なし」)

6 閉会